

平成28年度第3回運営委員会 議事概要

- ・開催日時 平成29年3月14日（火）14時～16時
- ・出席者 運営委員…………… 11名出席（欠席委員：4名）
 ウィズセンター…………… 所長、次長、職員
 男女共同参画青少年課… 総括副参事

議事	概要
<p>1 開会</p> <p>2 議題</p> <p>(1)平成28年事業の実施状況について</p> <p>(2)ウィズセンターの利用状況について</p> <p>[質疑等]</p> <p>委員</p> <p>ウィズセンター</p> <p>委員</p> <p>ウィズセンター</p> <p>委員</p> <p>ウィズセンター</p> <p>委員</p> <p>ウィズセンター</p> <p>委員</p> <p>ウィズセンター</p> <p>委員</p> <p>ウィズセンター</p> <p>委員</p>	<p style="text-align: center;">ウィズセンター説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就業相談事業で、就業を希望する女性に、就業に関する相談や情報提供を行うということだが、実績はどうか。 ・就業相談事業は、毎週火曜日の完全予約制であり、日にちが合わなかった場合、ハローワークが近距離にあるため、そちらを紹介して行ってもらう方が多く、実績がない。 ・ハローワークと男女共同参画推進センターとで、対応の仕方などが違うのか。 ・おかやまマザーズハローワークの就職支援ナビゲーターが、出張相談に来られるので、ハローワークで相談を受けることと、対応は同じである。 ・ウィズセンターで、就業の相談をする人はどれくらいか。 ・就業支援の総利用者数が35人なので、あまり多くない。ウィズセンターに毎日届くハローワークからの求人の一覧表を利用されている。 ・就業相談事業について、来年度も継続の予定があるのか。 ・協力いただけるということなので、継続の予定である。 ・この事業を行っている意味合いは何か。 ・ハローワークと連携しウィズセンターでも就業支援を行うためである。 ・相談者の要望により、臨機応変に曜日を変更ということはできないか。 ・相談者のことを考えると、ウィズセンターを利用してもらうよりも、マザーズハローワークを紹介することになってしまう。 ・岡山市と同じような講演等を行っているので、利用者を取り合っている

議事	概要
ウィズセンター	<p>ように感じる。岡山市と何か一緒に取り組むことを検討したことがあるのか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・デートDV防止講演会について、教育委員会のどういう事業枠でDVの話をしているか。 ・岡山市とは連携をとりながら実施して参りたい。津山市や倉敷市でも講演等を行っているが、なるべく他地域でもできるように努力をしたいと思う。 ・デートDV防止講演会について、学校では年間にいくつかの項目で研修を計画されるため、その中のひとつとして行ってもらっている。若年層への啓発は大変効果的であるため、今年度はストップ・DV事業の中でも特に力を入れて行った。高校、大学、専門学校などで実施している。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・デートDV防止講演会について、もし了解を得られたら、何校かのアンケート結果を、運営委員会でも配布してほしい。
ウィズセンター	<ul style="list-style-type: none"> ・情報誌「With」（69号）に、ストップ・DV講座の講演会の様子と、生徒の感想を掲載しているのので、ご覧いただきたい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・総合相談事業で、平成28年度の一般相談の件数が、全体的に減少傾向とのことだが、原因は何か。純粹に課題が減っているのか。そうではなく何かの要因があるのか。
ウィズセンター	<ul style="list-style-type: none"> ・DVに関して言えば、12月までのデータを見ると、警察や配偶者暴力相談支援センターを合わせて、約1割減というような結果が出ている。現在、24市町村がDV防止基本計画等を策定しており、各窓口での相談体制が整備されてきたことが要因かもしれない。 ・DVの意識が浸透してきたことで、加害者が身体的な暴力より、被害者の方が相談しにくいような精神的なDVの方向になっていることはないだろうか。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・加害者が減ったから相談が減ったということはないと思う。まだまだ本当に必要な人に相談がいないということと、福祉などいろいろな行政の相談窓口に来ても、専門的なDV相談につなげていないという状況が見える。相談窓口に行っても、受け止めてもらえなかったり、二次被害になったりする場合もある。また、被害者はなかなか最初から専門的な窓口や警察に行くことができない。地域の相談窓口や身近で相談を受けた人が、きちんと専門的な相談窓口につなげられるように、県下のいろいろな相談員に知らせていくことが必要だと思う。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・今多いのは生活困窮の相談で、そういうケースをむげに切ってしまうと、最後の最後かもしれない人のつないでいる糸を切ってしまうこともあるだろうと思っている。それをどこまでどうかたちで対応していくかが、課題である。ただ、どこにつないだらいいかはなかなか難しく、つなぎ先が悪いとその先でたらい回しになってしまうということもある。

議事	概要
男女共同参画 青少年課	<p>こういうことがあったらここにつなぐというところが、全体としてカバーしていけるといいかと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・DVを受けた方でどこにも相談しないという方が3分の2いる。データとしては確かに去年から数百件減っているが、隠れているDV被害を受けている方というのは、もっと多いと思う。なぜ一時的に減ったかを行政として分析するのも必要かもしれないが、それを超えて隠れているDV被害者が相談できる体制の整備や周知に力を入れていかななくてはいけないと思っている。関係者との連絡会議を密に行い、何かあった時、この曜日のこの時間であれば、この場所で相談を受けているという広報も充実させていきたい。 ・また、医療関係者への広報を改めてやっっていこうと思っている。自分ではDVとっていなかったが、話を聞いていくうちにDVを受けていたことに気付くということもある。また、ケガをして病院に行って、こけて顔の周りに傷が付くわけがないのに、「いや、こけたんです」としか言わず、隠そうとする方もいる。そのような場合、医療関係者で気付いて、相談窓口を紹介してもらうようなこともしていきたいと思う。相談されない理由として、「私さえ我慢すればと思った」「恥ずかしい」「世間体が悪い…」という意見が多くある。相談しやすい環境を作るのと同時に、周りが気付いて相談できるように考えていかないと、隠れているDV被害者を掘り起こすのは難しいと感じている。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・最初は身近な地域の方が気づき、情報提供することから始めていったらいいと思う。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ストップ・DV事業で、「あらゆる暴力から子どもも自分も守ろう～みんなが笑顔ですごせるために～」という講演会に参加した。子どもという題からして、DV支援に関係のある方以外も多く参加していた。結果として、幅広い内容の中でDVを学ぶというほうがいいのではないかと思った。必要な人に届けるために、来てもらいやすい題や、よく分かる伝わりやすい内容が大切だ。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・例えば「子どもの貧困」といえば、共通認識されている問題なので、このようなキャッチフレーズのようなものを入れて少し幅を広げていくのもいいと思う。
ウィズセンター 委員	<ul style="list-style-type: none"> ・なるべく多くの方に参加してもらえるようにタイトルなどを工夫したい。 ・DV、ストーカー問題、児童虐待は、本当に命にかかわる大切な問題である。強力に取り組んでいただきたいと思う。数字に関して言えば、前年比だけではなくて、過去何年分との比較もしてもらいたい。
委員 ウィズセンター	<ul style="list-style-type: none"> ・相談事業で「男性相談員による男性相談」とあるが、男性相談をしているところは本当に少ないのでいい事業だと思う。どんな相談が多いか。 ・男性相談は、今年度は2月末までで27件あった。生き方の相談が6件、

議事	概要
<p>委員 ウィズセンター 委員 ウィズセンター 委員 委員 ウィズセンター 委員 ウィズセンター 委員 男女共同参画 青少年課</p>	<p>夫婦関係が4件、暮らしが3件、人間関係やこころの相談が各2件などである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年代はどうか。 ・30代と60代が多い。 ・夫婦関係ということで、加害者からの相談というのはあるか。 ・一般相談の中には、加害者と思われる方もいるが、「男性相談員による男性相談」にはないように思われる。 ・被害者を支援していつも言われるのは、加害者をどうするかということである。加害者から相談があつて、専門的なプログラムをしているところがあるが、加害者がなかなかそこにつながることはない。男性相談の中で、加害者相談、専門的なプログラムをしているところを紹介するといった経験はないか。 ・28年度は「男性相談員による男性相談」ではない。 ・男性相談で、加害者対応をするという視点はないか。 ・加害者支援について、前回の運営委員会で委員から提言があつたので、相談員の研修会で、DV加害者プログラムを実施している団体の方から実態を伺った。 ・ウィズセンターの「男性相談員による男性相談」で、加害者の相談を受けるところまではいっていないのが実情で、月に1回、3時間だけなので、そこまで手が届いていない。加害者のプログラムについては中途半端な状況ではできないため、研究してからになるかと思う。 ・DVの相談窓口を単独で持っている市町村と、一般相談を兼ねてとの両方があると思うが、単独のDV相談窓口はどれくらいあるか、教えてほしい。 ・DVだけを受ける相談窓口はなく、一般相談の中でDV相談に対応できるというかたちになっている。そういった相談窓口は、岡山市や倉敷市にある。岡山県の施設では女性相談所とウィズセンターの2カ所ある。それ以外の市町村は、例えば児童虐待などの相談窓口があつて、そこで話を聞いているとどうもDVがある、もしくは、例えば社協で、生活保護などの相談を受けているうちに、話の中からDVが分かるというようなかたちが多い。そういった窓口であれば全市町村にある。相談電話の専用の窓口を持っているのは、おそらく岡山市、倉敷市、津山市だと思う。あとは職員が、一般の事業の相談であつたり、ほかの申請であつたり、児童虐待や生活保護などの相談を受ける中で、DVが分かるケースが非常に多いのだと思う。

議事	概要
<p>(3)その他</p> <p>委員</p> <p>委員</p> <p>委員</p> <p>委員</p> <p>委員</p> <p>ウィズセンター</p> <p>委員</p>	<p>「男女共同参画ゼミナールの課題」についてウィズセンターから説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内容が今まで勉強してきた方が中心のように思うので、いきなり入ると理解しにくいところがある。もう少しわかりやすい内容にしてほしいという意見がある。できるだけ初めての人に、男女共同参画とはどういうことかという基礎的なことから勉強してもらいたいという気持ちで受講をすすめているため、もう少し基礎的な部分からもう一度取り組んでいくような講座も設けてほしいと思う。 ・生活の現場からの声を集約することによって何らかのテーマができて、それに対して関心のある人が来る。その人たちは主体性を持っているから、戻っていても何らかの活動を起こすのではないかと思う。世の中には、もっといろんな分野で、いろんな地道な活動をされている人たちがいるはずなので、県は、それをどういうふうにくみ上げ、具体化していくのか。地道なこの人たちの声を聞いてテーマ設定していけば、10人や20人は無理としても、1人や2人の人は志を持って地域に戻り、組織化できるのではないかと思う。 ・ゼミナールで「修了者の名簿を市町村の担当課に送り、地域における意識啓発活動や講習会、研修会の助言者等への積極的な雇用を働き掛ける」ということだが、それが修了した方の役割とイメージしている。こういう講座を受講して修了して、小さい実践から大きい実践までいろいろ事例があるかと思うが、そういうものを集めて報告など行い、修了後のイメージを持てるような場があると、広げていけるのではないかと思う。難しい報告会でなくても、前年度の修了者と交流しつつ、地域で実践してもらおう働き掛けができると、地域での担い手や実践者を増やすことにつながられるのではないかと思った。 ・ゼミナールをいかに進めていくかということで、普段は知らないだけで通り過ぎている方たちにきっかけを与えるという意味で言えば、例えば県が会社に受講を推奨して、仕事を持っている人は特定の時間、場所に集まるというのは難しいと思うので、講座のビデオ撮影しておいて、そのビデオを会社に貸し出し、何本見たら認定され、会社のほうの評点が上がるといった仕組みなど、最初のきっかけとしてはいいのではないかと考える。 ・市町村や団体だけでなく、企業の方にも参加してもらいたいと思っている。提案いただいた意見も参考にしていきたい。 ・企業に参加してもらうことについて、問題は、社員ではなく経営者である。男女共同参画は中小企業の経営者が意識して認識していかないと変わらない。中小企業のトップの人たちが、男女共同参画の意味や意義を

議事	概要
委員	<p>しっかり学んで、理解して推進していく。まずはそこからではないかと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日程について、昼休みが1時間半ある。30分ぐらいを利用して、午前中に受講した感想を話し合うなど、受講生同士が交流できる時間があってもいいのではないかと思う。ただ講義を受講するだけでなく、ゼミナールに行ったら他市町村の情報も得られるし親しくなれるなど、そういった要素を増やしてもいいのではないかと思う。
ウィズセンター	<ul style="list-style-type: none"> ・ウィズカレッジで講演会の後に交流会を行ったところ、講演を聞いた直後なので、同じような気持ちを持った人が自分たちの意見をどんどん言い合い、その後に何かをしようという熱意につながっていった事例があった。ゼミナールについても、受講者同士の交流なども考えていきたい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・座学だけで何もしゃべらずに終わるのではなく、もっとディスカッションをする。もう一遍、自分の言葉で話したり確認しあうと、かなり新しいことを講師以上によく知っていたりすることが現場レベルではある。
ウィズセンター	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマについて、男女共同参画のすそ野が広いので、今までは幅広いテーマを選んでしたが、中にはもっと詳しく勉強したい方もいるので、幅広くしたほうがいいのか、一つのテーマをいろいろな角度から見ていったほうがいいのか、どのように思うか。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・地域リーダーだったり、地域で活躍される方だったり、そういうポジションをイメージすると、深くは知らないけれど、まずは知っているという状況も大事なのかと思う。例えば、最初のほうに総論的なものを持ってきて、あとは各論を持っていき、それに関心のある人はより深めていけるような道筋をつくってみても面白いかと思う。
ウィズセンター	<ul style="list-style-type: none"> ・現在、ウィズセンター登録団体にアンケートを行おうと考えている。ウィズセンターが実施していることと、登録団体のニーズがマッチしていないかもしれないとの思いがある。ウィズセンター登録団体と連携してどんな活動ができるのか、何を求めているか、また、登録団体同士の交流も、もっとあったほうがいいのかと思うので、どういうかたちの交流だったらよいかなど含め、登録団体の声をお聞きしたい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・登録団体も、いろんな方向性を持っているが、やはり皆さんがどんな要望を持っていて、ウィズセンターに何を求めているかというアンケートは非常に重要で、そこから講座を起こしていくのもよい手法だ。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・登録団体の持っているニーズで、連携して繋げていくことは大切だし、登録団体をもっと活用していくことが、横ばいの利用者を増やすことにもつながると思う。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・各委員からの意見を参考にして、案を練っていただきたい。 <p style="text-align: right;">以 上</p>
3 閉会	